隔週金曜掲載

和歌山を創る新聞 わかつく

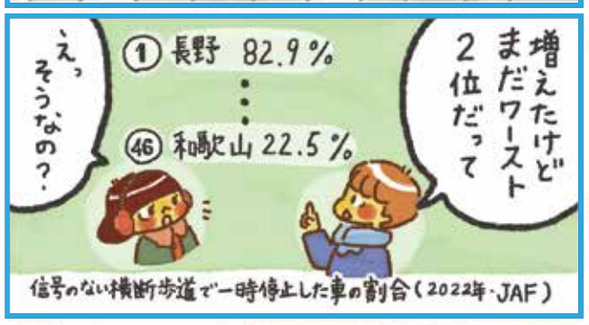
Vol.306
2023.3.3

認定特定非営利活動法人
わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223　FAX 073-423-8355
E-mail info@wnc.jp　URL http://www.wnc.jp/
編集　志場 久起

和歌山を創る新聞「わかつく」バックナンバー

https://wnc.jp/works/wakatsuku

和歌山を創る新聞「わかつく」バックナンバー PDF 版を掲載中。スマートフォンからもご覧いただけるようになりました。



トルコ友好のまち串本町 2023
トルコ南東部地震災害義援金

振込口座：紀陽銀行串本支店 普通 449160
　　または、三十三銀行古座支店 普通 7001609
口座名義：串本町トルコ震災を支援する会

トルコ震災から１カ月～ 日本トルコ友好の町 串本から

串本町は、「日本トルコ友好発祥の町」として知られています。そのトルコでは今年 2 月 6 日に南東部を震源とする大地震があり、隣接するシリア国民を合わせて 5 万人以上の死者が確認されているほか、150 万人以上が避難生活を送っていると報道されています。そんななか、串本町ではトルコを支援しようという動きが出ています。

販売されたお守り ナザールボンジュウ
邪悪な視線をはねのけるとされています

役場に設置された義援金箱

日本トルコ友好の歴史

１８９０年、串本町沖を航行していたトルコの軍艦「エルトゥールル号」が遭難。この際、串本町大島の住民が乗組員の救助に尽力しました。１９８５年のイラン・イラク戦争時には、その時の恩を返すために、トルコから派遣された救援機２機により、イランに取り残された日本人全員が脱出することに成功しました。

こうした歴史により、日本とトルコの友好関係が育まれてきました。そんななか発生した今回のトルコの大地震。直後から串本町内で支援の動きが広がりました。

町全体、一丸となって

串本町は地震直後の７日から、町役場やトルコ記念館などの４か所に義援金箱を設置。９日には義援金の振込口座も開設し、町内外の企業や個人からの義援金の受付を始めました。

義援金を届けに訪れた個人や団体の支援は２月15日までに町長や役場窓口に寄託された１０００万円と、義援金箱や振込口座に寄せられた５００万円の計１５００万円にのぼり、17日付で大使館に届けられました。

町総務課によると、エルトゥールル号遭難事故などをテーマにした映画「海難１８９０」を全国で再び上映し、入場料を義援金にしようとする計画を進行中とのことで、被災地への支援を一過性のものとして終わらせないために動いています。

町には募金箱を設置したいとの申し出や問い合わせが相次ぎました。町内でトルコ料理の提供や雑貨の販売、ワークショップなどを行っている「タイヨウのカフェ」も募金箱を設置している店舗のひとつ。「和歌山トルコ文化協会」の事務局を兼ねているこのカフェでも、地震直後の７日からレジのそばに義援金箱を設置し、訪れる人に協力を呼びかけてきました。

店長で事務局長の久堀（ぐぼり）るみさんによると、今回の地震では２０２０年に発生した「エーゲ海地震」を大きく上回る被害が出ていることもあり、報道で悲惨な状況が伝えられるにつれて、小銭を袋いっぱいに入れて持ってくる人や、カフェで注文をせず義援金箱にお金を入れるためだけに訪れてくれた方もいたといいます。

タイヨウのカフェ久堀さんと義援金箱

トルコに思いを馳せる

ＮＰＯ法人潮岬おもしろらんど体験学習推進協議会でも、支援を形にするためトルコ伝統のお守り「ナザールボンジュウ」を手づくりし、ストラップにして販売しました。

同法人は、指定管理者として串本町潮岬にある「県立潮岬青少年の家」を運営しており、日本とトルコの友好の歴史を知ってほしいと、かねてからナザールボンジュウを作る体験を提供していました。そこで職員からの提案で、同施設で開催しているグラウンドゴルフの大会で参加者に義援金を募ることを計画。当日の呼びかけにも関わらず１３３個のストラップが売れ、大会で集まった義援金とお守りの売り上げなどをまとめ、串本町に寄託しました。

お守りを購入してトルコを支援できればと、千葉県や群馬県など県外からも問い合わせがあったといいます。同法人の山口和紀事務局長は「お守りを通じてより身近にトルコを感じてもらい、思いを深めてもらえれば」と話していました。

地震大国・日本、そして南海トラフ地震による被害が懸念される私たちにとっても、決して他人事ではない今回の大地震。トルコを思う串本町民の支援が届き、復興への一助となることを願いたいですね。

（阪口晃彦）

わかやま SDGs パートナーシップ基金 ご寄附を引き続き募集します

みんなの力で SDGs 実現を！

わかやま NPO センターが 2021 年度から運営を開始した「わかやま SDGs パートナーシップ基金」では、県民のみなさまからのご寄付を原資に、国連 SDGs（持続可能な開発のための目標）の達成に向けて取り組みをすすめる和歌山県内の NPO・ボランティア団体を応援します。

2 年目となる今年度は、SDGs ゴール 3「すべての人に健康と福祉を」に関する活動をおこなっている団体に対して助成を実施します。3 月 1 日の締め切りまでに 30 団体を超えるご応募をいただき、審査の段階に進んでいます。本基金は 2023 年度以降も実施してまいります。みなさまからの基金へのご寄附を募集しています。

事業の流れ

1. 本事業の趣旨に賛同いただいた和歌山県内外の個人・企業のみなさまから、1 口 3,000 円でご寄附のご協力をお願いします。
2021 年度は 72 件・285,000 円、2022 年度は 70 件・224,000 円（2 月 24 日現在、1 口 3,000 円以外の寄附を含む）のご協力をいただきました。

2. 集まったご寄附の額を元に助成事業枠を設定し、支援を希望する NPO・ボランティア団体の募集を行います。
昨年度は 3 万円 ×10 団体＝合計 30 万円の助成枠を設定し、募集を実施。40 件を超えるご応募をいただきました。
今年度も 30 件を超えるご応募をいただき、わかやま NPO センターからの拠出金を合わせ同程度の助成を実施します。

3. わかやま NPO センターが設置する審査委員会（外部委員を含みます）による審査をおこない、支援の優先度合いが高いと判断された団体に助成を実施します。
今年度は SDGs ゴール 3「すべての人に健康と福祉を」をテーマに助成先を公募しました。2023 年度の方針は今後検討の上、設定します。

4. ご寄附いただいた方には、翌年 1 月頃に寄附金受領証明書をお送りします。確定申告により所得税等の控除が受けられます。

5. 事業終了後、各助成先の取り組みを公開します。昨年度助成先の取り組み事例はこちらから ▶
今年度助成先については 3 月中に決定し、8 月までの間、事業を実施します。今年 10 月頃をめどに取り組みをウェブサイトで公開する予定です。

ご支援の方法

▶ 1 口 3,000 円から受け付けます。現金によるお支払いのほか、銀行振込（振込手数料はご負担ください）、クレジットカード決済（決済手数料はかかりません）がご利用いただけます。
▶ 今後も継続してご支援いただける場合は銀行口座からの自動引落、クレジットカードからの継続決済のご利用が可能です。詳しくはお問い合わせください。
▶ 本基金へのご寄附は寄附金税制の対象となります。

くわしくは専用ウェブサイトをご覧ください。クレジットカード決済によるご寄附申し込みフォームもございます。**https://wnc.jp/works/sdgsfund/**

【運営】
認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター
〒640-8331　和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223　FAX 073-423-8355　E-mail info@wnc.jp
【事務所不在時、電話は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます】